

雪を楽しむ

1月28日 渡前地ふぶき祭り
2月18日 月山あさひ雪まつり



渡前地ふぶき祭り

凧揚げ大会や櫓ひき競技などが行われます。

月山あさひ雪まつり

2月18日（日）10時〜2時、道の駅「月山」を会場に、雪あそびやいろいろ端体験など昔の雪国文化体験や、朝日地域の山の幸満載の鍋



など、「冬」を思いっきり楽しむイベントです。

冬ならではの「雪を楽しむ」イベントが各地で行われます。
藤島・渡前地区では「地ふぶき祭り」が1月28日（日）、渡前地区活動センターで開催されます。



雪の降る中、鶴岡市消防団出初め式
1月13日 市役所前

平成29年産米主食用米の仮精算（追加払い）

品種	JA庄内たがわ		JA鶴岡	
	平成29年12月27日払追加払い	手取額	平成30年1月15日払追加払い	手取額
はえぬき	800円	12,800円	1,000円	13,000円
ひとめぼれ	800円	12,800円	1,000円	13,000円
コシヒカリ	800円	13,400円	1,000円	14,000円
ササニシキ	800円	12,800円	1,000円	13,000円
あきたこま	800円	12,800円	1,000円	13,000円
つや姫	0円	15,200円	200円	15,400円

平成29年産米の仮精算（追加払い）がJA庄内たがわは昨年12月27日に、JA鶴岡は1月15日に農家に支払われました。
JAあまるめは2月中に決定される見込みです。

各JAが平成29年産米の追加精算800円〜千円



大平開拓記念碑と関係者一同・昭和29年（1950）

東郡電気事業ものがたり
東田川郡電気事業の偉大なる軌跡
早坂清輔（上町）

開墾事業②
開田については立谷沢川本流からポンプによる汲み上げも、膨大な経費で断念したが、昭和24年（1949）予定した開墾を完了した。

困難な作業に耐え忍んだ作業員8名が正式に開墾地の売り渡しを受け、自作農として独立し、現在は庄内町の立谷沢煎字須野大平集落の方々である。

しかし、その後3名が離農してこの地を去り、現在は5戸のことである。

昭和29年（1950）、苦難の道を通った大平開拓を記念して、東田川郡町村組合では「大平開拓記念碑」を建立した。



（大平集落公民館）

（庄内町立立谷沢・大平開拓記念碑）
去る平成25年7月3日、東田川文化記念館郷土研究サークルの一行が、農場の現在と記念碑を見学し、大平集落の公民館で、代表の苦勞話などを聞き、先人の苦勞を偲び、現実の厳しさを感じてきた。



シベリア抑留とロシア民謡

新町 齋藤留治

ある年の6月頃、ドイツ・ルフトハンザ航空機でヨーロッパに向う途中の飛行機から、未だ一面真っ白な雪に覆われた大平原が続いているのが見えた。フライト・アテンダントから「今どの辺を飛んでいるの？」と尋ねたら「シベリアの上空を飛んでいます。」と言った。

白い大地は果てしなく続いていて、時々ポツリと小さな集落が機内の窓から見えた。地図帳ではなかなかピンとこなかったが、「シベリアってなんて広いだろう」と驚いて見つめていた事が思い出される。

夏でも上空は零下の世界。話には聞いていたが、冬に外でオシッコ（日本人男子は外で平気で？放尿をするが、海外では厳禁・見つかる）と罰金を取られるという国も多いと聞く。すると、直ぐに氷柱になって大事な部分にぶら下がりがねないという。

こんな過酷な大地で、女優黒柳徹子さんのお父さんは戦後抑留生活を送ったということがある講演会で聞いた事があった。

黒柳徹子さんといえば、テレビの「世界不思議発見」を見ていてその博識ぶりに感心させられる事が多いが、テレビ朝日で放送されている「トット（徹子ちゃん）」で、お父さん

の事も含めて回想されているので、トットちゃんも芸術一家と言う事をご存じの方も多いと思う。

彼女のお父さんは、後にNHK交響楽団のコンサートマスターをも務めたバイオリンの名手だったそう。

「カチュウシャ・トロイカ・黒い瞳」等々のロシア民謡は、抑留者達がシベリアから持ち帰って、広く日本人に愛唱されるようになったそう。

原詩は今、日本語に翻訳されている歌詞とは違うという事だが、物悲しげで官能的な曲調に合わせて翻訳されたロシア民謡は、戦後の混乱期のみならず、

これからも歌い繋がないければならない貴重な平和への財産でもあると思う。（ロシア民謡と言えるか判らないが、加藤登紀子さんが歌う「百万本のバラ」が私は好き。）

今はどうか知らないが、私がまだ若い頃、東京には「歌声喫茶・カチュウシャ」というのが有ったが、そこでは盛んにロシア民謡が歌われていた。

煙草の煙モウモウだったので、受動喫煙で私の肺は大迷惑だったかもしれない。



「（権力者が）報じられたくないものを報じる。ジャーナリストとしての信念を持ち続けたい」
望月衣塑子東京新聞記者
I あらためて憲法を学ぶ 青山崇

国会は1月から6月まで開かれるが、政府与党は憲法改正発議を狙っている。「3000万署名」を進め憲法を守る年にしましょう。

国連人権理事会は11月16日、日本に対する人権審査の勧告案を取りまとめた。

日本の報道の自由に関わる問題が初めて盛り込まれ、「放送の独立性を確保するため、法改正を含めて検討すべきだ」として、放送法第4条、政治的公平を

うたう「番組基準」の見直し、放送局を管理する独立監督機関の設立など具体的提案をした。

日本は放送法で、NHKも民放も政府が監督権限を持ち番組に介入でき、このような国は他にロシア、中国、北朝鮮、ベトナム、ラオスの5カ国だけで大多数の国は第三者機関が行っている。

国連が日本の放送に強い関心を示したのは、2016年2月、高市

総務相（当時）が「政治的公平を欠く放送を繰り返した場合、電波停止を命じることがある」との問題発言だ。

これ以後NHKの政府追従はさらに酷くなった。政府報道をたれ流すだけで論評がない。かつての『大本営発表』さえ感じる。

こうした風潮の中で望月衣塑子記者の存在を知った。

官房房長官の記者会見がよく放映されるが、数分で終わる形式的なものが多い。このよう



核兵器禁止条約

先週の見出しの「ひとまず安心」から、南北の話し合いは更に良い結果を生み出しました。つまり南北で話し合いが続いていけば、その間は障害となる軍事演習はしない・とトランプが明言したことです。

▲五輪参加の話の後、軍縮を話題にしようとしたら、「私たちの核兵器は米国を狙ったもので韓国を狙ったものではない」と言ったそうだが、今回はこれに反発しなかったトランプを褒めたいところ。

▲世界終末時計という言葉聞いたことがあるでしょう。人類が自らの知識で獲得した科学で、世界がなくなるまでの時間を表わした時計のことです。それによれば、北の原発などに反発するトランプとで一触即発の懸念か

な慣行を破り厳しい質問を繰り返して一躍知名になり、「な菅菅官房長官の会見なのか」安倍政権とメディアのあり方」という講演などをし、「権力者が」報じられたくないものを報じる。

ジャーナリストとしての信念を持ち続けた」と語り、『新聞記者』を発刊した。

記者は主権者国民に代わってものを聞ける人、主権在民の世、気骨ある記者が続出して欲しい。

ら、残りが2分30秒となっていたのです。

▲ノーベル賞の受賞者を含むなど、世界的な科学者などが社会情勢を勘案して発表されるもので、いま発表があれば必ずこれは延びたものでしょう。

▲やはり世界終末時計に一番大きな影響があるのは核兵器です。人類の存続にかかわります。こんな物で脅しあうなんて21世紀の人類に相応しくないでしょう。ですから、昨年末に採択された「核兵器禁止条約」は、理屈抜きで賛成されるべきものです。唯一の被爆国である日本政府の席は空席でした。

▲だから世界の期待が込められた「あなたがここにいてくれたら」のメモと折鶴が置かれていたと。被爆者の代表と日本共産党の志位委員長などが視てきています。条約を批准できる政府を早く・です。

(石川)